

## 岡部正義\*・野崎志津子：八丈島の栽培植物

Masayosi OKABE &amp; Sizuko NÓZAKI:

Cultivated plants in the Hachijo Island.

八丈島は氣候温暖にして熱帯系の植物も相當生育して居り、殊に熱帯依存物資の給源地を失つた今日、同島は大都市東京に最も近い亜熱帯地として、地理的にも産業的にも重要な役割をなすものである。筆者等は再三渡島する機會を得、本島に於ける栽培植物に就て調査を遂げたもので、其の結果は總數 70 科 183 屬 257 種である。而して 1 科に多數の屬を有するは、シユロ科、キク科の 12 屬を最多に、ユリ科、マメ科の 11 屬、ホモノ科の 9 屬、イバラ科の 8 屬、ナス科の 7 屬、サトイモ科、ヒガンバナ科、ウリ科の 6 屬、シンケイ科の 5 屬、アヤメ、ラン、タカトウダイ科の 4 屬、マツ、シヤウガ、アフヒ、サンケイ、ケフチクタク、ヒルガホ、アカネ科の各 3 屬、ヒノキ、ツユクサ、バセウ、ブナ、クハ、ジウジバナ、ヘンルウダ、クマツヅラ科の各 2 屬にして他は 1 科 1 屬である。又種數の最も多いのは、ユリ科の 25 種、シユロ科の 21 種、キク科の 17 種、イバラ科の 15 種、マメ、ナス科の 11 種、ホモノ科の 10 種、サトイモ、ジウジバナ、シンケイ、ウリ科の 8 種、ヒガンバナ、ヘンルウダ科の 7 種、シヤウガ科の 6 種、タカトウダイ、シウカイドウ科の 5 種、マツ、アヤメ、ラン、クハ科の 4 種、バセウ、ブナ、アフヒ、サンケイ、ヒルガホ、ケフチクタク、アカネ科の 3 種、ヒノキ、ツユクサ、フウロサウ、サボテン科の 2 種、他は 1 種である。

〔ウラボシ科〕 フイリキノモトサウ。〔ソテツ科〕 ソテツ。〔イテフ科〕 イテフ。〔ヒノキ科〕 ヒノキ、イブキ。〔マツ科〕 *Araucaria excelsa* R. Br. (ナンヤウスギ), *Cedrus Deodara* Loud. (ヒマラヤスギ), リウキウマツ, クロマツ。〔アダン科〕 *Pandanus boninensis* Warb. (タコノキ)。〔ホモノ科〕 *Cymbopogon citratus* DC. (レモンサウ), イネ, キビ, ハチク, ホテイチク, オロシマチク, サタウキビ, アハ, コムギ, タウモロコシ。〔カヤツリグサ科〕 サンカクキ。〔シユロ科〕 *Arenga Engleri* Becc. (クロツグ), *Chamaerops* sp., *Cocos Ramanzoffiana* Cham. (ギリバヤシ), *Cocos Weddelliana* H. Wendl., *Corypha* sp., *Howea Belmoreana* Becc. (ケンチャヤシ), *H. Forsteriana* Becc., (ヒロハケンチャヤシ), オガサハラビラウ, ビラウ, *Oreodoxa regia* H. B. et K. (ダイワウヤシ), *Phoenix canariensis* Hort. (カナリヤヤシ), *Ph. dactylifera* L. (ナツメヤシ), *Ph. reticulata* Jacq., *Ph. Roebelinii* O. Brien (シンワウヤシ), クワンノンチク, シユロチク, *Sabal Adansonii* Guerns (サバルヤシ), *S. havanensis* Lodd., *Thrinax* sp., タウジユロ, シユロ。〔サトイモ科〕 *Anthurium Andraeanum* Linden. (オホベニウチハ), *A. magnificum* Linden. (ピロ

\* 國立衛生試験所目録分場

ウドウチハ), *A. Schergerianum* Schott. (ベニウチハ), サトイモ, *Dieffenbachia pictum* Schott, *Monstera deliciosa* Lieb.(ホウライセウ), *Scindapsus aureus* Engler (ポソス), *Zantedeschia aethiopica* Spr. (カラー). [ツクサ科] ムラサキオモト, ムラサキツクサ. [ミヅアフヒ科] ホテイアフヒ. [ユリ科] ラツキヨウ, ネギ, ニラ, シヤボンロクワイ, *Asparagus falcatus* L. (ヤナギバテンモンドウ), *A. myriocladus* Hort. (タチボウキ), マツバウド, *A. plumosus* Baker, *A. plumosus* var. *nanas* Nichols. (シノブボウキ), *A. pygmaeus* Makino (タチテンモンドウ), *A. Sprengeri* Regel (スギノハカズラ), ハラン, オリヅラン, *Cordyline angustifolia* Kunth, *C. stricta* Engler, *C. terminalis* Kunth var. *amabilis* Hort., *C. terminalis* var. *bella* Hort., *Dracaena fragrans* Ker var. *Lindenii* Hort., *D. Sanderiana* Hort., ジャノヒゲ, オホバジャノヒゲ, マオラン, チトセラン, イトラン. [ヒガンバナ科] アヲノリウゼツラン, リウゼツラン, アマリリス, クンシラン, ジャガタラスキセン, スキセン, タマスダレ. [アヤメ科] フリージャ, タウシヤウブ, ニハゼキシヤウ, モントプレチャ. [バセウ科] バセウ, ミバセウ, *Strelitzia Reginae* Aiton (ゴクラクテウバナ). [シヤウガ科] ハナシヨウガ, フイリゲツタウ, ゲツタウ, ウコン, メウガ, シヤウガ. [ダンドク科] アカバナダンドク. [ラン科] シラン, *Cymbidium* spp., *Cypripedium* spp., *Dendrobium* spp. [モクマワウ科] モクマワウ. [ヤナギ科] ヤナギ. [ブナ科] クリ, カシハ, アベマキ. [クハ科] イチヂク, インドゴムノキ, ガジュマル, クハ. [イラクサ科] ラミー. [ヒユ科] *Amaranthus gangeticus* L. (バーヤム). [オシロイバナ科] オシロイバナ. [ツルナ科] マツバギク. [ナデシコ科] ムシトリナデシコ. [ヒツジグサ科] スキレン. [ウマノアシガタ科] ヒエンサウ. [メギ科] ナンテン. [ツツラフヂ科] タマザキツツラフヂ. [モクレン科] ホホノキ. [パンレイシ科] *Asimina triloba* Dunal (ポーポノキ). [クスノキ科] *Persea gratissima* Gaert. (アボカード). [ジフジバナ科] サントウサイ, タイサイ, ハクサイ, カブラ, カラシナ, キヤベツ, ハナヤサイ, ダイコン. [イバラ科] ボケ, ビハ, オランダイチゴ, ヤマブキ, リンゴ, ニワザクラ, オホシマザクラ, ヤヘザクラ, ウメ, モモ, シナミザクラ, ソメキヨシノ, ユスラウメ, ナシ, コデマリ. [マメ科] サウシジユ, ナンキンマメ, エビスグサ, *Delonix regia* Raf. (ホウワウボク), *Derris elliptica* Benth. (デリス), ダイズ, ヤマハギ, アツキ, ソラマメ, フヂ. [フウロサウ科] *Pelargonium graveolens* L'Hér. (ニホヒテンヂクアフヒ), テンヂクアフヒ. [ヘンルウダ科] オレンヂ, ザボン, ブンタン, レモン, ナツミカン, ウンシウミカン, サンセウ. [センダン科] センダン. [タカトウダイ科] ドクエ, シナアブラギリ, クスノハガシハ, タウゴマ, ナンキンハゼ. [ウルシ科] ハゼノキ. [ホウセンクワ科] ホウセンクワ. [クロウメモドキ科] ナツメ. [ブダウ科] ブダウ. [アフヒ科] オクラ, タチアフヒ, プツサウガ. [パンヤ科] カボツク. [ツバキ科] チヤ. [オトギリサウ科] キンシバイ

〔トケイサウ科〕 *Passiflora edulis* Sims (クダモノトケイサウ)。〔シウカイドウ科〕 アマノガハベコニヤ、ヤウラクベコニヤ、オホバベコニヤ、*Begonia Haageana* Watson., *B. spp.* 〔サボテン科〕 ヨビジンチユウ、クヂヤクシヤボテン。〔ミソハギ科〕 ハナヤナギ。〔ザクロ科〕 ザクロ。〔テンニンクワ科〕 バンジラウ。〔サンケイ科〕 ミツバゼリ、ニンジン、ウキキョウ。〔シヤクナゲ科〕 アフリカエリカ。〔カキ科〕 カキ。〔ヒヒラギ科〕 オリーブノキ。〔ケフチクタウ科〕 *Carissa Carandas* L. (カリツサ)、ニチニチサウ、ケフチクタウ。〔タウワタ科〕 サクララン。〔ヒルガホ科〕 ユフガホ、サツマイモ、アサガホ。〔クマツヅラ科〕 ヒギリ、セイヨウニンジンボク。〔シンケイ科〕 ハツカ、*Orithosiphon stamineus* Benth. (クミスクチン)、レモンエゴマ、シソ、アヲジソ、パツチヨリー、ベニバナサルビヤ、ムラサキサルビヤ。〔ナス科〕 オホバンマツリ、タウガラシ、シシタウガラシ、タカノツメ、*Cestrum nocturnum* L. (ヤコウボク)、テウセンアサガホ、タバコ、ツクバネアサガホ、トマト、ナス、ジャガイモ。〔ゴマ科〕 ゴマ。〔アカネ科〕 クチナシ、*Coffea arabica* L. (コーヒーノキ)、ハクテウゲ。〔ウリ科〕 トウガン、スキクワ、シロウリ、マクハウリ、キウリ、タウナス、ニガウリ、ハヤトウリ。〔キク科〕 ノコギリサウ、クワツカウアザミ、カイザイク、ゴボウ、シユンギク、マーガレット、キク、コスモス、タケダグサ、スキゼンジンナ、ヒマハリ、キクイモ、リウゼツナ、チシヤ、タマチシヤ、オホハンゴンサウ、ヒヤクニチサウ。(昭和 25. 11. 27 稿)

## ○ ヘラゴケ雌阿寒岳に産す (岩野俊逸)

Shunitsu IWANO: On *Glossodium japonicum* in Hokkaido.

雌阿寒岳でヘラゴケ *Glossodium japonicum* Zahlbruckner を得たので簡単に報告する。即ち筆者は昭和 24 年 8 月 9 日北海道雌阿寒岳に植物採集登山した。阿寒湖畔から登ると一合目からしてエゾマツ、トドマツ、アカエゾマツの針葉樹林であつて下草は殆んどササである。三合目で登山路は小川を横断しているが案内人の話によるとこの川は瀧川と俗稱している由である。成る程冷たいきれいな水ではあるが滋味を持つている。この川を渡つて間もない頃登山路の傍の天然に倒れた朽木(針葉樹)にヘラゴケが群生していた。しばらく行くと又目に止つた。恐らく林中を探したらまだ見つかつたに相違ない。旅行から歸つて佐藤正巳博士に御検定をお願いした所間違なくヘラゴケの由。大日本植物誌 No. 7 佐藤博士のハナゴケ目 (1) を見ると北海道では大雪山と葦別岳で四ヶ所産地が記してあり雌阿寒岳に産することは未だ聞かないので報告した次第である。尚雌阿寒岳は五合目まで針葉樹林が續き殊に四五合目はネムロトドマツの純林でその雄大な景觀は筆舌に盡せない。ここで登山路にず一つと蘚類のキセルゴケ *Buxbaumia aphylla* L. が見られたのも珍らしかつた。